

ちばの地域福祉

「平成27年度を迎えるにあたって」

千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会 会長 中塚博勝

去る3月24日に開催された中核地域生活支援センター連絡協議会総会において、勇退された井本義孝会長に代わって、会長に選任されました香取ネットワーク統括センター長中塚博勝と申します。就任に当たり一言ご挨拶を申し上げます。もとより、浅学菲才は自認するところではありますが、皆様のご指導をいただきながら努めてまいります。

これまで中核センターにお寄せ下さいました皆様のご支援に感謝申し上げますとともに、今後ともご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご案内のように、中核センター事業は平成16年10月に正式に開始され、以来10年が経過しました。年ごとに寄せられる相談件数は右肩上がりに増え続け、ここ数年は9万件に届く状況にあります。このような相談件数の増加に加えて相談の内容にも変化が見られ、いわゆる「複合的な課題」を持った相談が多く寄せられる傾向が顕著になっています。

こうした事例は、その解決に向けた支援や関係する機関が多岐にわたり、解決に至るまでの道程は長くかかりますが、それぞれのセンターが正面から向き合って、解決に向けて取り組んでいる様子は、毎年発行されている「中核センター白書」に示されている通りであります。

こうした実践報告を見るにつけ、あらためて中核センターが果たしている役割や機能が、県民の生活を支えていることを実感されます。

私たちは、この積み上げてきた実績や寄せられる信頼に溺れることなく、相談者に対して「常に新鮮な驚きとところからなる対応をする」存在であり続けなければならないと思っています。このことは、支援に際してマンネリズムに陥ることを戒める、つまり、いつも同じことばかり繰り返し訴えていると思えても、昨日の本人の心情と今日のそれは決して同じではないことを基本に据えて「相手の物語りに耳を傾ける」ことを大切にする聴き方と言えるものです。

平成27年度中核センター事業重点目標として「これまでの10年を総括し次の10年に向けた中核センターの役割・機能を再構築する」ことを掲げました。

全センター一丸となってこの課題に取り組んで行こうではありませんか。

27年度からは多くのセンターが新しい事業「生活困窮者自立相談支援事業」に取り組みれることとなります。どうか全力を傾け相談者の最善の利益を護る活動をされることを期待しています。

この一年がすべてのセンターにとって新たな発展の年となることを願って、ご挨拶に代えさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします

ちから ちばの福祉力・社会資源

CSK（千葉県相談支援事業連絡協議会）

【活動の目的および内容】

千葉県相談支援事業連絡協議会(略称：CSK)は、平成21年1月14日に結成され、現在、会員数は88会員となっています。個々の事業所は小規模が多く、相談支援専門員が抱え込んだり、孤立したりしないように、制度改正等の情報を、素早く正確に共有できるよう、勉強会やML、ニュースレターを活用して発信しています。個々の相談支援専門員の質の向上が、県内の相談支援の向上につながると考えています。

CSKのモットーは、「障害の当事者またはそのご家族から受けた相談を、いったん全てお聞きし、相談内容によって他にたらい回しにすることはしない事」です。なぜなら、全てのご相談は生活全般に起因するものであり、それらが（例えば就労や居住といった）ある特定の分野で解決しても、問題が全て解決したという事にはならないからです。一つの課題が解決しても、新たに別の課題が掘り起こされるというのは、相談支援の中でよく起こりうることです。障害児者を社会資源や制度へ結びつける事は、相談支援の一端でしかありません。相談支援と言うものは、相談者の生活をトータルに考える事が必要だと考えています。

役員は、基本的に圏域ごとに選出されており、毎月の役員会に加え、必要に応じて各部会を開催しています。部会は、今年度は地域交流部会、研究部会、広報部会、研修部会が設置されています。年度ごとの活動状況に応じ、必要なものを設置できるよう、柔軟に活動しています。

【26年度主な事業内容】

①視察クリニック

地域交流部会が主催する「視察クリニック」は、地域の社会資源を知り、かつ会員同士の親睦を図ることを目的に開催されています。今までに君津圏域、香取・印旛圏域の事業所の見学を行いました。終了後に毎回行われる懇親会は、会員同士の貴重な情報交換の場となっています。

②相談支援研修全県大会

平成23年の日本相談支援専門員協会（NSK）関東甲信越ブロック全県大会から始まったもので、以後、毎年開催している年1回の研修大会です。毎回、厚生労働省の相談支援専門官に基調講演をお願いしています。NSKからも後援および講師派遣のご協力をいただいております。

【入会について】（事業所でも、個人でも入会可能です。）

相談支援専門員はもとより、相談支援専門員に興味のある方も是非ご入会下さい。

問い合わせ先はメールにてお願いいたします：csk.jimukyoku@gmail.com

※Facebookでも情報発信中です。（千葉県相談支援事業連絡協議会で検索してご覧下さい）

ちば・元気印！～こんなひとたち、見つけた～

こまちだ たまおさん～たまあーと創作工房～

JR 外房線上総一ノ宮駅から歩いて3分のところに、素敵な工房があります。

☆新しく作られた工房です→

☆活動の目的と意義をまとめると
このようになります↓



↑
信念

↑ ☆ご本人です。勝負服で登場
してくださいました

○ご自身のことを教えてください

こまちださん：一宮町は生まれ育った場所です。今は駅前を中心に開発がすすんでいますが、こどもの頃は自然がいっぱいで野山で遊んでばかりいました。祖父が絵を好きだった影響でアートに興味を持つようになりました。学生時代からこどもの造形を手伝っており、こどもたちと関わることと自分の作品を作ることを活動の中心としてきました。進学・アートの仕事で地元を離れていましたが、「自然素材に触れたい」、「土があった方がよい」と一宮町に戻り活動を始めました。

○現在の活動を、今後どのように発展させていきたいと考えていますか

こまちださん：テーマは『ボーダーレス』。最近、心の病を抱えた人や障害を持つ子が増えてきたと同時に、アートに触れたいと希望される人が増えています。福祉関係者からの要請も増えています。アートを拠り所と思い必要としている人がいれば、福祉・医療などの垣根なく寄り添うように関わってきたいと思っています。

一緒に話しているだけでワクワク元気をもらえる女性です。生徒数 130 人。こどももおとなも楽しんで通える美術教室を開いています。お孫さん連れのおばあ様もいらっしやるとのこと。夏は山の中でこどもたちのアート合宿、年1回の勉強会（今年は5/2。～本物のエコロジー・地球にやさしいとは！？～『うんこはごちそう』という企画です。興味あれば問い合わせを。）を行っています。

一度のぞいてみてはいかがでしょうか。

Sketch Book
たまあーと創作工房
・絵画教室 ・こども教室

<http://www.tamart.net/>
〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮 2553-8
☎&📠0475-42-6138



ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

『一般公開講座』～認知症の治療とケア～

【内 容】 現在、認知症を持つ方が急増し、医療や家庭のみならず、社会的にも看過できない問題になりつつあります。今まで、認知症の対応は医療、行政、介護、市民などそれぞれの分野で個別に行われてきました。しかし、このままでは今後ますます増加する認知症の方への対応が困難になることは明らかです。
市原市認知症対策連絡協議会は、それぞれの分野の関係者が課題を共有し、より良い支援への意見交換や取り組みを行っています。今回、広く認知症対応に関心のある方を対象に一般公開講座を開催いたします。皆様ぜひご参加下さい。

【プログラム】 ○特別講演

「認知症の正しい理解～在宅で穏やかに生活するコツ～」

前橋市認知症初期集中支援チーム

群馬医療福祉大学 准教授 作業療法士 山口智晴氏

○一般公演

「地域ネットワークの形成について」

特別養護老人ホーム辰巳萬緑苑 施設長 小出浩丸氏

【日 時】 平成27年4月19日（日）14：00～16：30

【場 所】 市原市勤労会館「YOU ホール」3階 多目的ホール

（千葉県市原市更科5丁目1番地18）

【参加費】 無料

【申 込】 不要

【問合せ先】 市原市認知症対策連絡協議会事務局

〒290-0003 市原市辰巳台東2-16 千葉労災病院リハビリ科内

E-mail : ichininkyogmail.com

【主 催】 武田薬品工業株式会社

【後 援】 市原市認知症対策連絡協議会

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：夷隅ひなた（夷隅圏域）いすみ市深堀689-1

TEL:0470-60-9123

FAX:0470-60-9124

編 集：いちほら福祉ネット(市原圏域)市原市東国分寺台3-10-15

TEL:0436-23-5300

FAX:0436-23-5225

※内容についてのお問い合わせは、いちほら福祉ネット（担当：高地）までお願いします。